

3面からの続き

▶ 地域包括ケア推進調査特別委員会

- 障がい、高齢、子どもの福祉と生活困窮支援手続きのワンストップ化を求めました。
- 新型コロナウイルス禍での高齢者虐待の防止の推進を求めました。
- 障がい者が3年を超えて安定的に住める滞在型グループホームの開設支援を求めました。
- 新型コロナウイルスへの特別定額給付金未申請者への手続き支援について、高齢者、精神障がい者、視覚障がい者等のみを対象にし、知的障がい者等に対しては支援を行わなかった事の問題を指摘しました。

▶ 決算特別委員会区民分科会

- 既存の事業を支援していくことに加え、withコロナに合わせたイノベーションという形での新しい企業、産業を立ち上げていく観点も重要であることを指摘しました。
- 生涯学習団体・人材支援サイト「中野まなVIVAネット」について、区、ボランティア団体、指定管理事業者の三者が連携して質の担保をしっかりと行いつつ、ボランティアが積極的に関わってホームページが作られていることをアピールするよう指摘しました。
- 障害者支援養成講座で養成した人材の活用や活動状況を把握していない点を指摘しました。
- 区民が歴史民俗資料館の収蔵物を検索できるようにしたり、代表的な収蔵物をSNS等で区民に知ってもらえるような工夫をしたりすることを求めました。
- 新型コロナ禍において国民健康保険料滞納者に対して無理な差し押さえをしないよう求めました。



東京都児童相談センターを超党派の関東若手市議会議員の会で視察しました。



メディアに掲載されました

ハフィントンポスト オンライン記事 2020年10月21日7時42分

「知れば、理解者に変われる」足立区議の謝罪、ゲイの中野区議はどう見たか？

http://bit.ly/tatsunoko_39HP

昨年10月に「同性愛が法律で保護されれば足立区が減んでしまう」という主旨の発言が問題となった足立区議のケースだけでなく、それ以前にも同様のLGBTQに対する排他的な発言が公職者によってなされることは何度もありました。そのほとんどは「理解や知識の欠如」によるもので、そのたびに石坂わたるは語り合い、わかり合うことを試みてきており、その一部を記事にさせていただきました。「無知・無理解」は、ひるがえせば「知らないこと・理解すること」への第一歩となります。

放送大学 受講

12月19、20日 放送大学「生活に活かすデザイン基礎受講」
中野区におけるユニバーサルデザインをさらに進めるための受講しました。

12月 December

1日 1日 1日
LGBT+ハウジングファーストを考える会・東京 勉強会「酷法(こくぽう)」
2020年度大阪府主催「LGBT+学習会(オンライン)」HIVと新型コロナウイルス
東部福祉作業所クリスマスフェア
区民がつかう中野ユニバーサルデザインマップ作成講座
2020年度大阪府主催「LGBT+学習会(オンライン)」HIVと新型コロナウイルス
関東若手市議会議員の会 性教育・不妊治療PT研修会
中野区ウトリチ活動事例発表会
中野みんなのスペース「LGBT+」

11月 November

1日 1日 1日
中野 Halloween
区民がつかう中野ユニバーサルデザインマップ作成講座
やさしいおしゃべり喫茶「レインボーマラソン」(RKM)の部
関東若手市議会議員の会 議会改革PT研修会
大学生からの卒業論文に向けた取材
関東若手市議会議員の会 虐待防止PT新居児童相談センター視察 関東若手市議会議員の会 性教育・不妊治療PT研修会
放課後等デイサービス「アトリエいよこ」視察
中野区高齢者保健福祉計画意見交換会、東京都庁書土政治連盟議員総会・懇話会・中野区障害福祉計画・中野区障害児福祉計画意見交換会
関東若手市議会議員の会 役員会
区民がつかう中野ユニバーサルデザインマップ作成講座
中野区居宅支援協議会設置に向けた勉強会、東京若手議員の会研修会「多様性を認め合い、人権を尊重する自治体を実現するために」及び「調布市でも、若者総合支援事業」について
シンポジウム「わたしたちはここにいます」

10月 October

1日 1日 1日
南中野地区まつり、共生中野オンラインお茶会
日本精神保健福祉士協会研修会「まずさが虐待にならないために」
関東若手市議会議員の会 役員会
区民がつかう中野ユニバーサルデザインマップ作成講座
地方議員の勉強会「地域のバス・タクシーと議会の役割」
中野タイパシティブDAY
地域包括ケアEXPO
区民がつかう中野ユニバーサルデザインマップ作成講座
関東若手市議会議員の会 役員会
関東若手市議会議員の会 虐待防止プロジェクトチーム「PTミーティング」
レインボー大学「SAITAMA生討論同性婚・結婚するの？しないの？」
つながりの中野
A・業務自動化展
東京都庁書土会中野・杉並支部合同研修会「暴力団等排除対策研修会」
中野みんなのスペース「LGBT+」

石坂わたるの活動報告



不安と孤立を見捨てない

石坂わたるの たつのご通信

2021・新春号 Vol.39



今回のたつのご通信は、任期半ばをまぢかに控えたタイミングということもあり、通常よりも広い範囲にお届けさせていただいております。今後も購読をご希望される方はお知らせください。

私たちは今、自分自身の生活を守りながらも、同じ地域でくらす人や、(子どもを含めて)選挙に参加して行政に意思を表明することができない人々、また未来に中野区にくらす人々の生活をいかに守ることができるか、という難しい課題に真剣に取り組むべき時に差し掛かっています。

2021年(令和3年)は、withコロナ時代となって初の予算審議(新型コロナウイルスへの対策の費用などの支出の増と所得減や失業者増などによる税収の減が見込まれています)、中野区の将来を形づくる区の基本構想や基本計画の策定、施設の維持・建替え・統合・廃止などの計画の検討が目白押しです。

目の前の危機や不安に対応しつつ、誰一人として置き去りにされたり、不安や孤立が見捨てられたりすることがないように、将来にむけた持続可能な地域の姿や区民ひとりひとりが将来に安心して希望を持てる地域のあり方をしっかり考えなければならない状況となっています。

ひたすら成長を続ける経済や拡大可能な自治体財政は期待できない中、人口減少、感染症、災害、景気変動などの危機に備えつつ、ゆとりや希望や安心を分かち合い、支え合える社会をみんなで一緒に考え創っていきましょう。

石坂わたるからひとこと

区議会議員を使いこなしていますか？

区議会議員一人に対する区民一人のおよその負担額

中野区には、外国人住民や、未成年者も含めて334,652人が暮らしています。一般的な中野区議会議員は額面で1020万円程の議員報酬*1や、180万円の政務活動費*2、17万円程度の費用弁償*3で、総額1217万円程が税金等から支出されています。*4

区議会議員一人当たりに対する区民一人当たりの負担額*5は年間約36円程となります。

あなたの声を伝え、区議会議員を使いこなしてください

有権者だけでなく、広く住民に少しずつ費用負担をしていただいておりますが、議員の数が多いか少ないか、議員がしっかり働いているかそうでないか、議会が必要か否か*6を考える上で、皆さんは区議会議員をどう活用いただいておりますか？
中野区には42人の区議会議員がいます。自分がだれに投票をしたのかに関わらず、区民は議員を選んであるいは全議員に対して、区政について感じていること、困っていること、改善してほしいことを伝えたり、相談をしたり、説明を求めることができます。
また、議員の議会での発言や賛否などは、掲げている政策・信条や区政に関する

るデータなどの現状、選挙で投票いただいた方の声のみならず、区民全体のなかから寄せて頂いた声も踏まえながら熟慮され、決められています。

- *1 ただし、石坂の場合、税金や社会保険料や活動費などを除いた自分の生活費は390万円程度
- *2 活動経費の公費負担分
- *3 交通費・昼食代。石坂はそれらを自己負担し、全額を区外の公益団体に寄付
- *4 区議会事務局職員の人件費や議場の維持補修にかかる経費など共通経費等を除く
- *5 住民としての区民税、消費者としての消費税の地方消費税分、法人が払う都税などが原資
- *6 現行では町や村にのみ認められている仕組みですが旧東京都津木村のように議事を廃止して全有権者参加型で時間をかけた議論や採決を行う村民総会を行っていた例もあります

声を お寄せください

区議会議員42人は中野区民にとっての公的な資源です。それぞれの議員がさまざまな連絡手段を公開しています。(区議会のホームページや区の便利帳などを含む)
ぜひ皆さんの声を言葉にして区議会議員にお伝えください。

お問い合わせは **Tel&Fax 03-6304-8758**
<http://ishizakawataru.jp/> wishizaka@ishizakawataru.jp [@ishizakawataru](https://twitter.com/ishizakawataru)
 編集・発行 [共生中野]〒164-0014 中野区南台2-51-7-305 TEL&FAX 03-6304-8758 (留守番電話に切り替わるのに時間がかかる場合があります)
 [中野区議会]〒164-8501 東京都中野区中野4-8-1 TEL 03-3228-8874 (無所属控室) [事務所]〒164-0012 中野区本町6-27-12-603

若い世代のみなさんへ

若い世代が地域で活躍できる場を作ることや、若者が不安を抱え込まずに困りごとを解消できる中野を目指しています。

若者の予期せぬ妊娠・出産への支援や事前の情報提供の提案をしました。また、仕事や住まいを失った人や、住まいを失いそうな人などの生活困窮に陥った若者世代への支援も行ってきました。

子育て中のみなさんへ

育児不安や育児疲れを抱えている人などを含めた子育てを支える機会を増やし、変則勤務の人や仕事をしていない人も子どもを預かってもらえるしゅみを整えることや、妊婦、子連れ、ベビーカーの人が快適かつ安全に移動しやすい街づくりを目指しています。

区職員が新型コロナウイルスの対応に追われる中、すこやか福祉センターの保健師による相談・支援が手薄にならないように働きかけをし、相談業務等を維持しました。また、区内団体の方々と、路面の傾斜や段差、多目的トイレのおむつ交換台などの状況のチェックも行いました。今後の政策提言に活かしていきます。

介護をしているみなさんへ

介護の孤立を防ぎ介護者をサポートできる中野にすることや、介護を行う人や高齢者の生活を支える人の育成を目指しています。

新型コロナウイルスのリスクや不安の高まる中で、家族が感染した場合の要介護者の介護支援などの提案をし、一部実現しました。また、若年性認知症の支援の拡充について問題提起をつづけ、専門窓口が設置されました。



実際に車椅子移動をしたり、調査・測定をしたりしながら、中野区のユニバーサルデザインマップを作成しました



高齢者のみなさんへ

年をとっても、一人暮らしになっても安心して暮らすことができ、年齢に関わらずに地域で活躍をしたい、働き続けたい、住み続けたいという希望が叶う中野区を目指しています。

高齢者虐待防止についての支援拡充や、24時間365日の相談を職員が責任の所在を明確にして行えるよう求めました。



認定NPO法人女性のスペース「結」によるLGBTの若者の居場所づくり「中野みんなのスペースIris」に参加しました



中野ダイバーシティDAYにオンライン参加しました

行政・公的機関の現場で働くみなさんへ

公務員や業務委託などで働く人が、働きやすく意見を表明しやすい環境を創り、熱意・能力・独創性が活かされ評価される組織づくり、正規・非正規の職員格差や公・民格差、官製ワーキングプアの解消を目指しています。

個別のボトムアップの提案でよいものを実施されることも増えた反面、部や課が提案したよい提案が理由がはっきりしない形で却下されたり、部や課を跨いだ横断的な調整が停滞し、責任の所在がはっきりとしないことが増えています。こうした状況を改善していきます。

新型コロナウイルス対策や、その影響を受けた経済への対策などに関わる職員の疲労が目立ち、体調を崩す職員も出てきています。職員の業務量の緩急を踏まえた柔軟な人の配置や、長時間勤務の防止・休養の確保、頑張る職員へのまっとうな評価ができるようになっていきます。

障がい児・者やご家族のみなさんへ

発言・自己決定・参加の機会を増やし、適切な情報をわかりやすく得ることや意思表示の支援を進めることを目指しています。

新型コロナウイルス対策や、日常生活の支援について、障がいに関することが区政で洩れがちである状況について、逐一指摘をし、対応を求めてきました。

また、ユニバーサルデザインマップ作成について、区内団体の調査に参加をして一緒に現場の状況の確認をしました。さらに、障がい児の兄弟へのサポートにも着手しました。昨年完成した中野新体育館のサブアリーナが障がい者スポーツ対応となりました。

中野を元気にしたいみなさんへ

区民が主体的に計画・実行する活動があちこちで展開される地域づくりや、個人や団体のボランティア活動、行政、企業の社会貢献活動、NPO法人や公益法人などが同じ目線で連携できる中野を目指しています。

区が育成したボランティアの活動の支援や、ボランティアな区民の活動をしっかりと周知する事などを求めました。

中野区に関わる
すべての人に
石坂わたるならではの視点で
人と街づくりを
サポートしていきます！



中小企業・個人事業主のみなさんへ

起業、事業の維持・拡大、事業内容の変更や新たな事業の立上げ、後継者支援を行うとともに、従業員の日常生活や地域貢献を大切にすることを事業者を支える中野区を目指しています。

新型コロナウイルス禍における従来の事業の支援に加え、withコロナ時代に合った新規の事業の展開や起業についての支援も求めています。

災害や生活の安全が気になるみなさんへ

様々な人の必要や希望に応えられる災害避難所や災害に強いまちの整備を目指しています。

通常の避難所の運営における新型コロナウイルス対策が進みましたが、二次避難所（福祉避難所）における高齢者・乳幼児親子・障がい児者などについては不十分であることから対策を求めています。

LGBTのみなさんへ

同性パートナーシップ制度や同性カップルに関わるしゅみの改善を進めます。また、LGBTが陥りやすい精神的、社会的な躓きや孤立を防ぎ、相談がしやすく、支援をえやすい中野を目指しています。

区営住宅の同性カップルの入居に向けての動きが進んでいます。

また、新型コロナウイルスの影響で住まいを失うLGBTも増えていますが、従来の生活困窮者向けの相部屋での支援が難しいことから、区内団体と連携して個室での居所の提供やその拡充を民間ベースで進めるとともに、区（委託業務受託者を含む）や区内事業者との連携を進めています。

まだ選挙権のない子どものみなさんへ

一人一人が大切にされる学級の環境を創ると共に、教室の外や学校外の居場所を増やして「安心して居られる」と感じられる地域にしていきます。また安全に駆け込める場所や安心して相談できる人を増やすこと、子ども・若者向けのHIVを含む感染症等の予防の取組を進めることを目指しています。

中野区では現在子どもの権利擁護条例が検討されています。安全な居場所、安心できる身近な人、様々な表現が護られる社会が中野区において実現し、誰一人として置き去りにしない条例になるよう働きかけを続けていきます。



新宿区内の「放課後等デイサービスアトリエたいよう」を品川区の横山議員や、武蔵野市の品川議員と視察しました



南中野地区まつりに参加しました



生きにくさを抱えているみなさんへ

セーフティネットの目が細やかな安全・安心な社会づくりを目指しています。多様性や違いを尊重し合える地域づくりや、あらゆる差別・偏見や不当な抑圧の解消、誰もが不安や困りごとを一人で抱え込まずにいつでも相談しやすい場や居場所を確保します。

誰もが不安や困りごとを一人で抱え込まず、相談しやすい中野区にしていきます。ユニバーサルデザイン推進条例の理念を大切にし、あらゆる差別・偏見や不当な抑圧の解消に引き続き取り組みます。

けがや病気で困りのみなさんへ

けがや病気で自力での移動が難しくなった方への支援の拡充、感染症や糖尿病などの慢性疾患やオストメイトの方などの暮らしの支援と差別や偏見の解消を進めます。そのための児童生徒や若者向けの人権啓発の取組を進めて行くことを目指しています。

新型コロナウイルスやその他の感染症について、偏見や差別が生じないように求めます。また、新型コロナウイルスに感染をした人への傷病手当金の支給について個人事業主やフリーランスの方が除外されていることの問題を指摘しています。

海外にルーツのあるみなさんへ

海外にルーツのある人が地域・職場・学校・家庭などの場で尊厳が護られ、多くの人とつながりながら理解し合い協働できる地域の実現を目指しています。

多文化共生や多言語対応、「やさしい日本語」についての取組を進める流れにあり、分かりやすい広報の工夫を求めました。

日本語に不慣れなニューカマーの外国人ばかりではなく、日本で生まれ育った外国人や海外にルーツのある日本人（帰国者、帰化者、親の一方が外国人の日本人等）の人権への配慮や困りごとへの対応を求めました。今後、多文化共生についての条例づくりにおいても盛り込めるようにしていきます。

▶ 一般質問

出産直後の子殺し防止と選択肢の提示を

石坂 出産直後の子を殺す痛ましい事件があります。妊娠～育児の環境整備は当然ですが、どうしても我が子が育てられない場合の、乳児院や特別養子縁組などの選択肢も知っておく必要がありませんか。
地域支えあい推進部長 望まない妊娠など、妊娠の様々な相談や若年層への啓発等に取り組んでいます。

障がい児を安心して出産できる社会に

石坂 障がい児の中絶について、障がい児者への差別的取扱いや配慮の不足によって障がい児の子育てに安心ができずに、中絶に追い込まれることは問題です。
子ども家庭支援担当部長 地域共生社会の実現に向けて障がい児の保護者の体験や当事者の声などを区民が知ることが重要であり、ペアレントメンタル事業における研修会などの取り組みを引き続き推進してまいります。

多様な子どもが安心して育つ家庭を

石坂 家庭内の無理解が虐待やそれと同様の影響をもたらす場合があります。障がい児や、LGBT児など様々な子どもが家庭にいて当たり前という啓発もすべきでは。
子ども家庭支援担当部長 保護者が正しい知識と理解を持ち、子どもたちが育ってよかったと思える環境を目指す、マイノリティの児童への理解促進に努めます。

「同僚や近所の人からLGBTでも嫌ではない」等と答える人が5割超である反面、「我が子や兄弟がLGBTであるのは嫌だ」等と答える人が6割超との民間調査結果があり啓発が必要です。

多様な親に対する子育てへの支援

石坂 親の一方或いは双方がLGBTや障がい者や外国人の場合も、子どもを育てる責務が果たせるようにする必要があります。
子ども家庭支援担当部長 マイノリティの保護者も含め全児童と子育て家庭が地域社会に支えられ、安心して子育てができる環境を整えていきたいと考えています。

ヤングケアラーの教育や福祉の保障を

石坂 障がい児の兄弟などのヤングケアラーの把握や支援を進めるべきです。
子ども家庭支援担当部長 早期の情報把握に努め、包括的支援を行います。

ヤングケアラーとはは家族の介護や支援を行う18歳未満の子どもを指します。

子どもの権利擁護条例

石坂 子ども本人や家族が障がい・外国籍・LGBTの場合など様々な子の権利を、子どもの権利擁護の条例に盛り込むべきでは。

子ども家庭支援担当部長 全ての子を含む条例の制定を進めたい。

児童虐待への児童相談所などの対応

石坂 児童相談所の区への移管後に、虐待について親子の分離だけでなく、親や家族に寄り添う支援も整えるべきです。
区長 家族と一緒に子の安全を作ることも児童相談所の重要な役割です。すこやか福祉センターなど地域の関係機関と連携しながら、その役割も果たしていきます。

児童相談所設置後もすこやか福祉センターの（旧）地域子ども家庭支援センター機能は残ります。

同性カップルの里親登録と里親への支援

石坂 中野区でも同性カップルの里親登録が可能な制度とすべきではないですか。
区長 里親認定を行う予定です。
石坂 里親が男女か、同性かを問わず、里親の子育ての不安に対しても安心して相談できる体制が必要ではないですか。
区長 適切な体制を構築します。



議会で登壇する石坂わたる

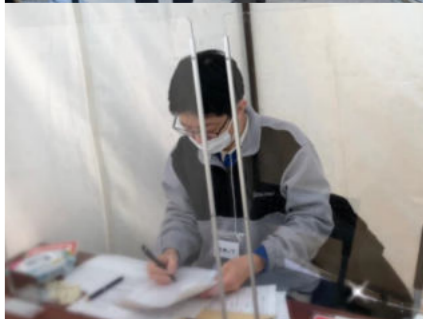
▶ 区民委員会

- 国民健康保険加入者が新型コロナウイルスに感染した場合の傷病手当金から現在も個人事業主やフリーランスが除外されていることに苦言を呈しました。
- 区が新型コロナ禍への経済対策として区内事業者に対して行う事業について感染対策を条件づけることを求めました。
- ごみ収集を行う作業員の感染症対策の強化を求めました。
- 基本構想検討案の「国籍や文化、年齢、障害、性別、性自認や性的指向などにかかわらず、誰もが地域の一員として安心して暮らす」について人権担当任せにせず、区内事業者の労働環境向上や、区民相談での取扱いを区民部でもしっかりと行うよう求めました。
- 今後の区の環境に関わる計画において、CO₂実質ゼロの観点を盛り込むよう求めました。また壁面緑化や緑のカーテンなどを促進する取り組みを求めました。
- 中野区基本計画骨子（案）の「外国人住民が地域で安心して暮らすことができるよう、多言語ややさしい日本語での情報提供や相談対応」について、日本で生まれ育った外国人や、親の一方が外国籍である日本国籍の子など海外にルーツを持つ区民が漏れていることを指摘しました。
- 区の基本計画作成は、新型コロナウイルスの影響による区税収入の動向もしっかりと踏まえて策定するように求めました。

4面へ
続く ▶



1月2日に生活困窮者支援の相談対応をしました



生活困窮者支援の相談対応を行う石坂わたる